



自然体で生き、
選んだ場所で輝いて
充実した人生を

たまの ひろこ 玉野 寛子

川俣町立川俣中学校 理科教諭

昭和53年(1978)、飯館村生まれ。
宮城教育大学卒業後、福島県の講師として2年勤務した後に採用。
震災時は相馬市立磯部中学校、その後、飯館村立飯館中学校に勤務した。

卒業生を見送ったあとでした。

高台にある相馬市立^{いそべ}磯部中学校にいた生徒は全員無事。

しかし帰宅していた中で、無念にも津波の犠牲になり、命を失った生徒がいます。

津波で流され、全部なくなってしまった磯部の街並み。

一晩過ごした磯部中学校から、翌日自宅へ向かう時に見た
あの風景が忘れられません。

私は当時、2人目の子どもがお腹の中にいました。原発事故後に故郷の飯館村^{いいたてむら}へ
避難するつもりでしたが、飯館の状況を知って福島市へ避難することに。

その後赴任した飯館村立中学校では村独自の放射線教育を担当しました。

当時はまだ何が真実かわからず、教えることに悩みました。

十分な実験道具もなかったので、環境再生プラザの協力を得て授業をしたことも。

10年の間に復興していく様子を見て「良かった」とは思いますが、

磯部の海で遊んでいる風景や飯館の農作業を一生懸命がんばっている姿が
戻らないのはやはり寂しい。

飯館には色がなくなったと感ずることも。

この経験をしたからこそ、子どもたちにはどんな場所へ行っても
自分の生き立ちを含めて自然体で生きていける人になってほしい。

自分が選んだ場所で輝いて充実した人生を送ってほしいと願っています。



川俣町立川俣中学校で理科を指導する玉野先生